

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	カブシキガイシャニンギョウゲキダナムスビザ		団体ウェブサイトURL
	株式会社人形劇団むすび座		https://www.musubiza.co.jp/
代表者職・氏名	代表取締役 大野正雄		
制作団体所在地	〒 459-8001	最寄り駅(バス停)	名鉄名和駅
	愛知県名古屋市長区大高町字川添86		
電話番号	052-623-2374		
ふりがな 公演団体名	ニンギョウゲキダナムスビザ		団体ウェブサイトURL
	人形劇団むすび座		https://www.musubiza.co.jp/
代表者職・氏名	代表 大野正雄		
公演団体所在地	〒 459-8001	最寄り駅(バス停)	名鉄名和駅
	愛知県名古屋市長区大高町字川添86		
制作団体 設立年月	1967年1月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表取締役:大野正雄 取締役:永草友子・長田明子 監査役:内山春枝		劇団員39名(制作部8、総務部4、演技部27) 加入の条件:劇団の実施する入団審査に合格すること
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名	伊藤博美
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	古田克司
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	puppet@musubiza.co.jp		

制作団体沿革	<p>昭和42年 人形劇団むすび座創立(昭和49年法人格取得) 昭和63年【受賞】名古屋市芸術奨励賞 同年「世界人形劇フェスティバル'88 in名古屋」(国内外より延10万人が参加)の事務局として中心的な役割を果たす 平成16～令和4年度まで文化庁巡回公演事業継続採択(平成28年度のみ不採択) 平成20年度【受賞】愛知県芸術文化選奨文化賞 平成26年度【受賞】児童福祉文化賞『ピノキオ』 平成28年度 韓国招聘公演『ピノキオ』(ソウル他4ヶ所11公演) 平成29年度【受賞】第33回芸術創造賞(名古屋市文化振興事業団) 平成30年度 韓国招聘公演『ピノキオ』(ソウル芸術の殿堂11日間14公演 他3ヶ所計19公演) 令和4年度【受賞】児童福祉文化賞『チト みどりのゆびをもつ少年』</p> <p><文化庁舞台芸術創造活動活性化事業>採択実績 平成30年度 『オーケストラの生演奏で贈る-音楽人形劇-ピノキオ』 令和元年度 『オズのまほうつかい』 令和2年度 『チト～みどりのゆびをもつ少年～』</p> <p><厚生労働省社会保障審議会 特別推薦作品> 『ピノキオ』『父と暮せば』(平成26年) 『オズのまほうつかい』『かくれ山の大冒険』(令和元年) 『チト みどりのゆびをもつ少年』(令和3年)</p>				
学校等における公演実績	<p>令和元年度:1,057公演 ●小学校公演:115 ●幼稚園・保育園等公演:786 ●おやこ劇場・公文協・自主公演等:156</p> <p>令和2年度:620公演 ●小学校公演:48 ●幼稚園・保育園等公演:507 ●おやこ劇場・公文協・自主公演等:49 ●乳児向け公演:16</p> <p>令和3年度:804公演 ●小学校公演:39 ●幼稚園・保育園等公演:636 ●おやこ劇場・公文協・自主公演等:114 ●乳児向け公演:15</p> <p>令和4年度:1,037公演 ●小学校公演:120 ●幼稚園・保育園等公演:742 ●おやこ劇場・公文協・自主公演等:157 ●乳児向け公演:18</p>				
特別支援学校等における公演実績	<p>平成13～16年度 愛知県立港養護学校 平成16～27年度 三重県立養護学校北勢きらら学園 平成16年度 愛知県立三好養護・安城養護・豊田市立豊田養護学校 岐阜県立中濃特別支援・飛騨特別支援学校 令和5年度 羽島市発達支援センター</p> <p><文化庁 巡回公演事業等での実施> 平成22年度 三重県立特別支援学校、東紀州くろしお学園おわせ分校 平成24年度 京都府立八幡支援学校 平成26年度 宮崎県立みやざき中央支援学校 平成28年度 名古屋市立南養護学校 平成29年度 三重県立くわな特別支援校、大阪府立西淀川支援学校 令和元年度 千葉県立銚子特別支援学校、山梨県立あけぼの支援学校 令和2年度 高知若草特別支援学校、宇都宮大学共同教育学部附属特別支援学校 令和4年度 三重県立養護学校北勢きらら学園 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校 青森県立青森豊学校</p>				
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有			
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/2yRpion-NQ8			
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	<table border="1"> <tr> <td>ID:</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>PW:</td> <td>なし</td> </tr> </table>	ID:	なし	PW:
ID:	なし				
PW:	なし				

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 人形劇団むすび座 】

対象	小学生(低学年)	○			
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生	-			
企画名	自己肯定感を育む人形劇「オズのまほうつかい」～自分を好きになる冒険の旅～				
本公演演目	人形劇「オズのまほうつかい」				
原作/作曲 脚本 演出/振付	原作=ライマン・ボーム 脚色=篠原久美子 演出=関根信一 美術=宮武史郎・小辻賢典 音楽・音響=ノノヤママナコ 振付・振付指導=LONTO・服部哲郎 照明=若狭慶大 公演時間 90 分				
著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名		
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況		
演目概要	<p><ものがたり> 家ごと竜巻に巻き上げられ、オズの国にやってきたドロシーとトトは、悩みを抱えたかかし・ブリキ・ライオンと出会いました。4にんとトトは、どんな願いも叶えてくれるという「オズ大王」に会う旅にでかけます。かかしは脳みそ、ブリキは心、ライオンは勇気をもらうため。ドロシーは、我が家に帰るために…。</p> <p>★主人公たちを「子ども」に設定 本作ではドロシーだけではなく、かかし・ブリキ・ライオンも、子どもとして描きました。主人公たちを、孤独で喪失感を抱えていたり、自信がなく自分はダメだと感じたりしている子どもとしたことで、「オズの魔法使い」の世界は、より観客の子どもたちに近づきました。ぶつかり合いながらも友達になっていく過程も親近感をもってご覧いただけます。「願ってやまないものは自分の中にあった」という物語の結末は、子どもたちが自分自身を見つめるきっかけとなることでしょう。</p> <p>★存在の多様性を視覚的に表現 本作には藁でできたかかし、無機質なブリキ等、素材感を前面に出した人形が登場します。ドロシーたちは自分とは全く違う存在と出会った時、お互いを否定し排除するのではなく、協力し合って困難を乗り越えていきます。自分ならどうするだろうと考えることで、社会の多様性について考える契機になればと願っています。</p> <p>★明るく軽快な音楽に乗せたダイナミックな舞台 卓越した人形遣いの技法と俳優自身のパフォーマンスが融合された、ダイナミックで疾走感のある軽やかな舞台上、子どもたちの心を惹きつけます。</p>				
演目選択理由	<p>テーマは『自分を好きになる冒険の旅』 私たちの社会には様々な個性や価値観が存在することを伝えます。「あなたはあなたのままで良いんだよ」というメッセージを送り、子どもたちの成長・発達や健全な人格形成に寄与したいと考えています。本作では、1体の人形を3人で扱う「三人遣い」(文楽の技法)を用います。この技法は、相手の気持ちを想像し、力と息を合わせることでより成立します。俳優の姿を通して、コミュニケーションや協働が大きな力となることを伝えます。</p> <p>児童福祉文化財「特別推薦作品」(厚生労働省推薦)等にも選定された本作品は優れた芸術性と高い教育的効果を併せ持ち、本事業の効果を向上させるのに最適であると考え、この演目を選択しました。</p>				
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p><共演形態>自分だけの人形をつくり、動かして表現 事前のワークショップで、子どもたちが自由な発想で人形を作り、劇中の歌を歌いながら動かす練習をします。本番では、子どもたちが自作の人形を手に登場。俳優たちと共に踊り、歌いながら共演します。</p> <p><公演終了後>鑑賞後の交流によって人形劇への興味をより深く 感想や質問を聞いたり、人形劇の手法や舞台構造の解説など、全児童との交流の時間をもつことができます。退場時には、俳優たちが人形を持ち交流しながら、子どもたち全員を見送ります。また、「バックステージツアー(舞台の裏側の見学)」や「片付けを手伝ってもらう」などの実施も可能です。</p>				
出演者	小辻賢典、太田博己、和田真琴人、小林嵩幸、高光浩一、渡辺智美、山口華穂、村尾梨佳				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 8 名	運搬	積載量: 2 t		
	スタッフ: 2 名		車長: 7 m		
	合計: 10 名		台数: 1 台		

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無	前日仕込み所要時間		-	時間程度
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出
	9:00	9:00~11:30 共演リハーサル11:30-12:15		13:30~ 15:00	10分	15:00~ 16:45	17:00

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	10日	10日	0日	15日	22日	
	11月	12月	1月	計	87日	
	15日	15日	0日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	30名(舞台上で共演する人数)
		鑑賞人数目安	500名

舞台イメージ

- ・体育館のステージは使わず、フロアに舞台をつくります
- ・客席内にカーペットで花道をつくります
- ・舞台設営に必要な面積=間口14m×奥行8m

- 舞台(カーペット)
- 舞台装置(幕・イントレ)
- 客席
- 照明スタンド



公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



花道をつかって
子どもたちの目の前へ
人形がやってきます



等身大の人形が
舞台いっぱい
駆けまわります



共演時の様子▲ 事前のワークショップで作った人形を操りながら舞台に登場！振付に合わせて踊ります

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	100名(舞台の前で共演する児童は30名)
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>★所要時間:90分～100分程度(2時限)</p> <p>①自分だけの人形を作って動かしてみよう!</p> <p>☆オズの国の住人「マンチキン」人形をつくってみよう! 「マンチキン」は、竜巻に飛ばされてオズの国に着陸したドロシーが初めて出会う、オズの国の住人です。人形劇「オズのまほうつかい」に登場するマンチキンは、平面を組み合わせられてつくられた人形で、「平面人形」「ペープサート」などと呼ばれています。劇中に登場するマンチキンと同じ仕組みで動くペープサート人形を作ります。(※材料は劇団で用意します。)</p> <p>☆作った人形を動かしてみよう! 作ったマンチキン人形を実際に動かしてみます。そして、人形に合わせた効果的な表現方法があることを学びます。その後、共演するシーン「ドロシーを歓迎し見送る場面」の空間での動き(振付)と人形の表現方法を練習します。</p> <p>②むすび座の「三人遣い」を体験しよう! この「オズのまほうつかい」では、文楽の様に1体の人形を3人で遣う「三人遣い」の様式を取り入れています。その「三人遣い」の操作方法や人形の材質・構造についての説明を行い、実際に「三人遣い」を体験していただきます。</p>		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>★個々の感性で自由に人形を製作することで、発想力・想像力・創造力を育みます。</p> <p>★完成した人形を動かしてみることで、「もの言わぬモノ」に命が宿り、表情が見えてくることを発見・体験し、人形で表現する楽しさ、面白さを実感します。</p> <p>★集団で演技することにより、バランス感覚や自発性・協調性・コミュニケーション等を学び、達成感、充実感を得ます。</p> <p>★舞台ではまるで生きているかのように自由自在に動く人形ですが、その裏には人形遣いたちの技術やチームワークが隠されています。子どもたちが実際に人形を動かしてみることで、人形の重さを体感し、生きているように動かすことの難しさを身をもって体験します。そして「三人遣い」を体験することで、息を合わせて協力し合うことの大切さ、チームワークやコミュニケーションの重要性を実感します。</p> <p>ワークショップを通して得たこれらの経験によって、本番の鑑賞の際、より深い興味をもって鑑賞することができます。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">↑ 劇中に登場する「マンチキン」</p> <p>子どもたちが作る「マンチキン人形」見本</p> <p>「三人遣い」体験の様子(2017年撮影) →</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

人形劇団むすび座

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、 および 効果的かつ円滑に実施する ための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>子どもは感受性も想像力も非常に豊かで、瑞々しく柔軟な心を持っています。そんな子ども時代に、豊かで質の高い生の舞台芸術に接することはとても大切なことです。しかし、日本ではまだその重要性が一般的に認識されておらず、特に子どもの場合は、舞台芸術に興味があり、「観てみたい」と思ったとしても、親の意向や家庭の経済状況等に左右されてしまいます。また、生の舞台芸術に出会えずその素晴らしさを知らないまま、子ども時代を終えてしまう子どもたちが数多く存在するのが現状です。</p> <p>この「学校巡回公演事業」は、子どもたちが家庭の状況や居住地等に関わらず、等しく質の高い文化芸術に触れることのできる稀有な事業です。当団体は、子どもたちに良質な舞台を届け、一人でも多くの子どもたちが文化芸術を享受できるよう、継続的に本事業に申請しています。</p> <p>本作品「オズのまほうつかい」を観た子どもたちは、驚きと感動で胸を震わせ、作品に込められたメッセージを受け取り、自分の中に生まれた感情を味わうでしょう。それらは、子どもたちの想像力・創造力・発想力・コミュニケーション能力を刺激し、豊かな育ちにつながります。また、本品のテーマである「自己肯定感」は、学校教育においても重要視されているテーマであり、学校現場の先生方と共に取り組む本事業において最適であると考えました。</p> <p>加えて、ワークショップに参加した子どもたちは、自由な発想で人形を作る面白さを知り、人形を使った表現の楽しさを感じます。そして本番当日は、出演の前の緊張感と出演中の高揚感を体験し、客席からの満場の拍手を浴び、充実感と達成感を味わうでしょう。また、舞台上で輝いている子どもたちの笑顔や、彼らが体験している様々な感情は、観客席で観ている子どもたちにも強く伝わります。観客席の子どもたちにとっても、上級生や同級生が舞台の上で輝いている姿を観ることは、通常の観劇にはない貴重な“文化芸術体験”となります。</p> <p>これらの体験は、将来の芸術家の育成や芸術鑑賞能力の向上につながります。子どもたちに最上の体験を届けるため、全力で誠実に本事業に取り組みます。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>1) 各学校の状況やニーズに合わせたアプローチをします。</p> <p>私たちはこれまで、学校現場に演劇的手法を取り入れている先生方の勉強会や、実演家が学校で演劇教育を行うための講座などに積極的に参加し、演劇教育の手法や、先生方・子どもたちへのアプローチの仕方などを学んできました。また、実際に学校現場に出かけて行き、先生方・子どもたちを対象にしたワークショップも数多く行っています。それらの豊富な経験を生かし、劇団からの一方的な押し付けにならないよう先生方のご希望やニーズを丁寧にお聞きして事業を実施します。そして本事業を初めて実施される学校さんも容易に理解していただけるよう、積極的かつ柔軟にアプローチしていきます。</p> <p>2) ご希望によりワークショップの前に各学校を訪問し、趣旨説明と打ち合せを行います。電話での連絡を密にするのはもちろん、希望される学校さんには、ワークショップ実施の前に自主的に各学校を訪問し、学校の状況を伺い、本事業が子どもたちにとってよりよい体験となるように実施に向けての打ち合せを行います。その際、写真入りのスタディガイド(ワークの内容・タイムスケジュール・人形の作り方等を記載)や、ワークで作る人形の見本も持参します。(事前にお伺いしない学校さんとは、お電話・メール・郵送などで綿密な打ち合わせを行います)</p> <p>事前に先生方と十分に話し合うことで、本事業の目的やワークショップの必要性等を具体的にイメージしていただくことができ、本事業への理解が飛躍的に深まります。そして先生方が前向きで積極的に関わってくださることで、子どもたちもより一層期待を持ってワークショップや本公演を迎えることができます。</p> <p>また、ワークショップは、主に本公演に出演する俳優・スタッフが行います。そのため、本公演で共演する子どもたちは、ワークで出会った俳優・スタッフと再会し、安心してのびのびと演じることができます。実務的な面においても、ワーク実施時に当事者が会場の下見や詳細な打合せを行っているため本公演をスムーズに開催する事ができます。</p>
---	---